

市原峠 ～ 千ヶ峰 ～ 杉原紙研究所

日 時：4月25日(日)

参加者数：21名

参加者：A班—L：舛賀

B班—L：須増

SL：待場

A班：内海・金島・狩集・切貫・北村・清水・砂川(美)・森川

B班：井上・大谷・塩津・荘所・中嶋・長谷川(孝)・平山・藤田・増田・渡邊(健)

行動記録：高砂駅7：15～宝殿7：35～市原登山口9：10～だんご山前、稜線10：50～市原峠11：05～千ヶ峰頂上12：15—12：45～三谷登山口
下山14：00

★ 東播磨の最高峰千ヶ峰

今年の春は温度差が激しく雨も多く例年がない気象条件のため天気を心配していたが、週間天気予報が発表される前からの晴マークが当日までつづき、まさに雲一つない快晴に恵まれ、清々しい気持ちで出発した。宝殿駅からマイクロバスで約1時間30分、北播磨の多可町へ。多可町は平成の大合併で旧多可郡の三町(加美町・中町・八千代町)が一つになった南北に細長い町だ。

千ヶ峰は、名のとおり、1005.2mで東播磨の最高峰。神河町との境界に位置しており、昨年登った笠形山への縦走も、この辺りの魅力あるコースと思われる。

誰かさんの生まれ故郷の豪邸を横目に、9時頃、市原コースの登山口に到着、ストレッチの後、市原谷川の沢筋を登って行く。

やがて平成20年に完成した真新しい砂防ダムに出会う。そこで登山道が途切れた格好になり、思案の後、木にくくりつけてある色テープに沿って登ることになったが、何か道なき道の様子、どうやらそのテープは調査のためのもので登山道ではなかったようだ。けもの道のような怪しい所もあり、これが2～3人なら怖いだろうが、21人もいれば、不思議なことに全然怖くなく登れるものだ。そんなスリルもあったが、予定とあまり変わることなく12時10分頃、

増田

千ヶ峰の頂上に到達した。そこからの眺めは、さすがに標高1000mということから、四方の山々を見下ろすようで何か優越感に浸った感じにさせてくれる。おいしいお弁当を食べ、



下りは三谷コースをとる。下りといっても普通なら、何ヶ所か登りがあるものだが、このコースは下り一辺倒だった。多可十景にも選ばれた三谷溪谷の緑と美しい水の流れ、そして杉・檜の木々や、虎刈りのような山があるなど景観はなかなかのものであった。さらには、なだらかな岩肌を滑るように流れる優しい「雌滝」と、かなりの高低差を一気に流れ落ちる勇ましい「雄滝」、溪谷の清涼感に心が和む。

下山後、杉原紙研究所へ向かう。杉原紙は1300年の歴史と伝統を持つ和紙で、県の重要無形文化財・伝統的工芸品に指定されており、加美区の北部(旧杉原谷村)が発祥の地とのこと。和紙の原料となる、コウゾを100%使い、

漂白剤を使わない自然の白さと温かみのある美しい紙肌が、この杉原紙の魅力と言われており、和紙作りの作業を間近に見たのは初めてである。

最後に恒例の入浴、今回は北播磨有数の桜の名所「桜公園」のそばにある天然温泉

(春蘭荘) 料金も 300 円と安くよかったが、ビールが無かったのがちょっぴり残念。

そんなこんなで 16 時 20 分春蘭荘を出発、17 時 40 分宝殿駅に到着。

楽しい山行ありがとうございました。

中山連山 (宝塚)

日 時：4月29日(木・祝) 参加者数：18名

参加者：A班—L：砂川 SL：竹内 B班—L：尾内 SL：西村

A班：阿蘇・大谷・貝塚(陽)・河合(信)・切貫・長谷川(易)・森川・和田

B班：貝塚(文)・金島・北川・塩津・中嶋・三木

行動記録：阪急中山駅 9:10～夫婦岩 9:30～奥の院 10:00～中山 10:30～第一鉄塔広場 11:30-12:00～最明寺滝 13:15～阪急山本駅 14:15

★ 中山連山に参加して

三木

朝 5 時 30 分起床、相変わらず風は強いが、雨は止み西の空には雲がないので、天気は大丈夫のようだ。

高砂 7 時 14 分発の山陽電車に乗り、9 時阪急中山駅に着く。天気はすっかり回復し、予想外の晴天になってきた。

中山寺境内に入ると、雨に洗われた新緑の中、石楠花が美しく咲いている。中山寺縁起によると、中山寺は聖徳太子の創建で、わが国最初の観音霊場とか、草創以来 1400 年に及ぶ歴史を誇り、「安産祈願」本邦随一の霊場とのことだ。

西村さんの指導でストレッチをして出発する。しっとりとした樹林の中の道をしばらくたどると夫婦岩に出くわした。

街から近い山で、自然を満喫できるとあっ

て、地元の方らしい軽装の山歩きの人達とよく行き交う。しばらく登ると、中山寺奥の院に着く。小さなお堂の裏から北へ山道に入る。

林の中を登りきると、北方が眺められる休憩所があった。稜線に出たようだ。やがて三角点のある中山最高峰に着く。展望は東六甲の山並みや大阪平野が一望のもと、伊丹空港の離着陸も見えた。12 時、昼食をとる。午後は、ここから東にむけて縦走する。ロープを張った、スリルのある 100 m の岩場を過ぎ、最明寺のゴールまじかにして、結構な滝が見られた。水量も多く豪快な眺めだった。

天気にも恵まれ、楽しい山行であった。電車を利用した山行も良いと思った。



山行報告書		No. _____	作成者氏名	松下 由美	
高砂市高砂町松波町440-43			提出年月日	10.4.02	
高御位山遊会 TEL 079-442-1207			運営委承認	10.4.25	
山域ルート及び目的	八ヶ岳・赤岳 雪山教室終了山行				
山行期間	10年 5月 3日	AM PM	~	10年 5月 5日	AM PM (3日間)
参加者氏名及び任務	L・気象・Dr. 砂川延也 会計・行動記録 高橋美和 食料・装備 松下由美				

山行総括 (目的は達成されたか、事故につながる要因はなかったか)

- * 雪山山行でのテント泊 * 残雪期の雪面にテント設営。(内張りを使用)
- * 食料 * テン場で水を作らなくてもよかった。各自米1合持参で3食分あった。
- * 気象 * 3日ほど前から気温上昇。雪がゆるんでくる事を懸念。気温が上昇するまでに行動する。(できるだけ早く出発する)
初めての雪山で気温も高く天候にも恵まれ気象条件はベストだった。
- * 行動計画 * 教室の終了山行で初心者2名入れての行動だったので適当なルートだった。地蔵尾根は休憩を入れる所がないので一気に登った。阿弥陀岳をハントできないこともなかったが、初回は無理の無い計画の方がベターである。
- * 装備 * スコップは2本持参した方がテント設営が早くできる。ルートが大部分尾根歩きの為、ピーコンは携行したが使用しなかった。(ルートによっては必要)テントマットは持参した方が良い。(代替品で工夫可)
雪山山行では電池も同様だがガスカートリッジも新品を持参する事。
- * 課題 * ビッケルワークとポッカトレーニングを数回こなして臨む。

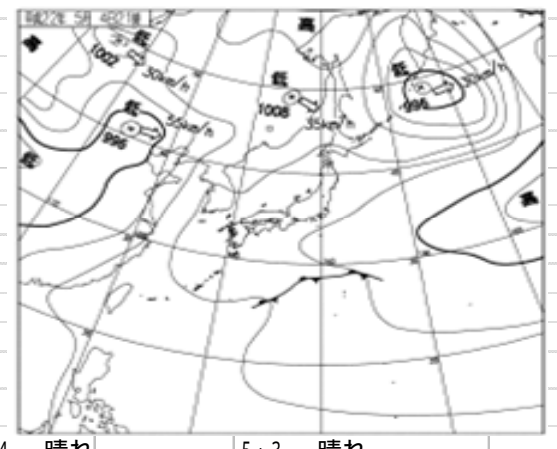
共同装備	テント一式	牛乳パック	修理道具	登山靴	雨具	手袋	水筒	ロールペーパー	筆記具	
	フライ	ベニヤ	救急セット	個	靴紐予備	長袖シャツ	帽子	テルモス	洗面道具	古新聞
	内張り	ポリタンク	裁縫セット	人	スパッツ	長ズボン	サングラス	食器セット	ヘッドランプ	健康保険証
	竹ベグ	ラジオ	ロウソク	装	ザック	下着替え	シュラフ	米1合	予備電池	携帯電話
	ガスヘッド	天気図用紙	ロープ25m	備	サブザック	防寒着	シュラフカバー	ナイフ	地図	常備薬
	ガスカートリッジ	修理道具	スコップ		ザックカバー	靴下	マット	マッチ、ライター	シルバコンパス	カメラ
	コッフェル	ツェルト	テントマット		ハーネス	ヘルメット	シュリング	時計	ゴミ袋	タオル
					ビッケル	アイゼン	ピーコン	ブローブ		

食料報告	月日	朝	昼	夜	予備食	医療報告	無し
	5月3日	各自	各自	キムチ鍋	カップラーメン		
	5月4日	雑炊	残りご飯	宿食	非常食		
	5月5日	宿食	花里	山品	各自		

会計報告	(交通費)	30456	(食費)	2171	(その他)	5000	(小計)	37627
					(下山後OP.)	36410	(＃)	36410
							(合計)	74037
					(1人当たり)		24679円	

行動記録 (コース、ルートタイムを0~24時で記入)			
5・3	砂川邸	4:00	5・4 起床 4:30
	大津SA	5:30	出発 6:55
	内津峠SA	7:15	休憩 7:42
	諏訪湖SA	10:00	赤岳天望荘 8:15
	美濃戸P	10:55	赤岳山頂 9:00
	昼食	12:00	文三郎道分岐 9:40
	美濃戸山荘出発	12:30	行者小屋 10:25
	休憩	13:30	昼食 11:30
	休憩	14:25	下山開始 13:10
	行者小屋	15:30	赤岳鉱泉 13:45
	就寝	20:30	休憩 14:10
			美濃戸P 15:30
			温泉 16:00
			すばる 17:30

気象状態 (天気図を添付のこと)



5・4 晴れ 5・3 晴れ